
会報

日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 豊島区池袋3-7-1

☎3984-3853 ikejelc@a.toshima.ne.jp

<http://www.jelc-ikebukuro.org/>

2016-6

発行日 2016年6月26日

宣教への派遣

牧師・青田 勇

マタイ福音書28章16節～20節には有名な弟子たちへの宣教派遣の委託の場面について語られています。

「さて、11人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておられた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。」(16節から17節)

宣教の派遣命令を受けたにも拘わらず、彼らの内のある者は心の内でイエスの復活を疑っていたのです。「疑った」というこの言葉は、聖書の中で2回しか出てきません。この聖書の箇所のある有力な写本は「彼らは疑った」とはっきりと記録しています。「疑う者」は一人ではありません。彼らは誰であるか名前は明らかではないにしても、疑いを持った人が弟子たちの中にいたのです。その疑いは、キリストに対する疑いであったかもしれないし、また弟子相互の仲間への疑いの心があったのかもしれませんし、また宣教の使命の大きさにおののきつつ、自らに対する自信のなさの疑いであったかもしれません。

だが、その疑いを抱いた弟子たちが宣教の主体を担う者へと変えられていくのです。あえて言えば、疑いが最初にあり、それを通して弟子たちによる教会の歴史が形作られていったのです。

日本福音ルーテル教会も百年を超える教会の歴史の中で、私たちは色々なことを経験しました。教会として、守るべき柱は「透明性」、「明快さ」、「信頼性」の三つではないかと思います。教会のあり方がどこかに不明が付きまとうような懐疑をもたれるあり方でなく、どこの面から問われても「透明性」を表明できる組織でありたいものです。また、問われた時に「明快」に応えられる説明能力を教会の組織が持っておきたいものです。さらに、何より「信頼」されることが大事です。信頼が前提に無ければすべてはだめです。信頼は、物事を進めるために欠かすことのできないものです。でも、信仰は信頼を超えたものです。

私たちは毎週の礼拝で、使徒信条を唱えますが、そこで「聖なる聖徒の交わり、キリスト教会を信じる」と告白します。教会は信じる群れであります。だが、間違っ

してはならないのは、教会は過ちを犯さない、絶対に歴史的に間違いをしないものであるから信じるというわけではありません。また、信頼に足り得るから、それを見定めたから信じることとするというのではないのです。むしろ、教会の群れはあくまでも、キリストの前においては罪ある人々の集まりです。キリストの十字架の罪のゆるしのみ業のゆえに私たちの教会の群れは、義とされるのです。私たちの教会そのものがキリストの義認の業にあずかっているのです。ですから、信頼の確証を得る以前において、私たちはキリストの体なる教会を信じさせられるのです。例えどのようなことになっても、キリストの教会を信じる前提は揺るがないのです。

私は教職として召されてから、41年間、日本福音ルーテル教会の教会を牧らせていただきました。本教会事務局での15年間の務めを除いて、合計6つの教会を託されました。最初の赴任地である九州にある聖ペテロ教会と二日市教会、さらに稔台教会と静岡教会、これらの教会は戦後すぐに伝道を始め、60年以上の歴史を経ています。それに、九州学院と共に生まれ、神の歴史を生きてきた大江教会は95年を経ています。また、現在、牧会を託されている東京池袋教会もすでに100年の歴史を刻んでいます。

これらの教会の歴史を振り返ると、教会はその存続のためにある時はあの世的になり、またある時はこの世的になったことがあったと思います。けれども、それだからと言って、前の時代の教会を非難して、それが教会ではないかのように断定することはできないのです。なぜなら、教会はその与えられた歴史性のゆえに、キリストに学び、罪ゆるされ、養われる教会だからです。

1963年から1965年の第二バチカン公会議を推し進めたカトリックの神学者であるカール・ラーナーは「人間の未来と神学」の中で次のような言葉を残しています。「教会はその神学の歴史性のゆえに学びつつある教会であり、歴史のなかにおける教会の旅路は真理をめざしつつ誤謬のなかを通過してゆく。」

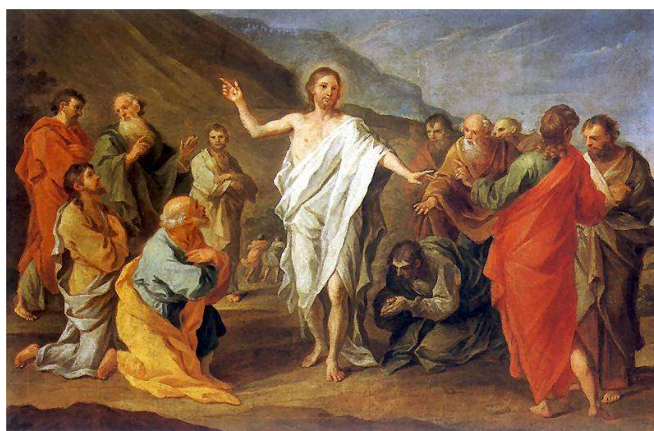
疑っている弟子たちのところに復活したイエスは「近づいて」きたとあります。彼らが、イエスに近づいたのではないのです。彼らとイエスとの間には深い溝があったにも関わらず、イエスの方が彼らに一方的に近づいたのです。この「近づいて」という言葉は聖書の中では90回に亙って出てきますが、その内の50回はマタイ福音書で使われています。ことにマタイは好んでこの言葉を用いたと思われます。疑いと不信を払拭できない弟子たちのところに、あえてイエスが近づいて来て、キリストを信じる者とさせられたのです。

「信仰」は無前提に、キリストの招きに従うことです。むしろ、一方的にキリストの呼びかけに応じ、招きに応じ、キリストを信じる者が許される者へと作り変えられることです。そして、キリストを信じる者へとさせられた者がキリストの宣教の言葉を託されるのです。不信の中にいたにもかかわらず、信じる者へと招かれた弟子たちはキリストの十字架と復活を伝える宣教の業を託され、そして、そのみ業に弟子たちは最後まで、従順に従ったのです。そして、今日の私たちの教会の宣教も神のみ言葉と共にその宣教の使命が引き継がれているのです。

神の宣教は決して、私たち人間としての自信による業に根拠を持つのでなく、キリストの招きと召しの言葉に根拠を持つのです。自分たちのなした業でなく、キリストの言葉に、その言葉の前に自分の罪深さと、弱さ、もろさをしっかりと信仰において謙虚に受け止め、神の宣教のために仕えて行くのです。しかも、キリストにおける神の恵みと義により、神を信じさせられた者として、キリストの宣教に仕えていくのです。そして、キリストの宣教に従順に仕える者がその神の宣教の業の中で、日々、改めて、不断にキリストを信じる者へと新たに作りかえられていくのです。



(2016.5.5 本教会総会 閉会礼拝説教)



教会の主な集会・行事予定

- ◆ 6月19日(日)礼拝後、婦人会 講演「八木重吉と登美子」 岡安大仁兄
- ◆ 6月21日(火)午後2時、婦人による聖書の学び、ルカ福音書22章1節以下
- ◆ 6月25日(土)午前10時～午後3時 一日修養会 「私たちの宣教」
～教会の過去・現在・未来～
- ◆ 6月29日(水)午後7時 聖書を読む会
- ◆ 7月3日(日)礼拝及び牧師館献堂式 礼拝後、婦人会主催 ミニバザー
- ◆ 7月6日(水)午後2時 城北地区牧師会
- ◆ 7月10日(日)礼拝後、定例役員会
- ◆ 7月17日(日)婦人会 聖研・ローマ2章1節以下
- ◆ 7月20日(水)午後2時 テモテ第二 3章10節以下
- ◆ 7月24日(日)礼拝後、牧師館オープンハウス
- ◆ 7月27日(水)午後7時 聖書を読む会
- ◆ 8月14日(日)礼拝後、定例役員会
- ◆ 9月11日(日)礼拝 城北地区説教交換
- ◆ 9月18日(日)礼拝 敬老の日を覚えての礼拝

